

JICA 環境社会配慮助言委員会 第 62 回全体会合
2015 年 9 月 11 日（金）14:30～17:30
竹橋合同ビル 研修室 8A
議事次第

1. 開会

2. 案件概要説明（ワーキンググループ対象案件）

- (1) カメルーン共和国-コンゴ共和国国際回廊整備計画（ミントム-レレ間）／カメルーン共和国-コンゴ共和国国際回廊整備計画（センベ-スアンケ間）（有償資金協力）環境レビュー（10 月 16 日（金））

3. 上記案件および WG スケジュール確認（別紙 1 参照）

- (1) インド国北東州道路網改善事業（協力準備調査（有償））ドラフトファイナルレポート（9 月 25 日（金））

4. ワーキンググループ会合報告および助言文書確定

- (1) モンゴル国フルメン風力発電事業（協力準備調査（有償 PPP））ドラフトファイナルレポート（8 月 21 日（金））
- (2) アルメニア国イエグヴァルド灌漑改善事業（協力準備調査（有償））スコーピング案（8 月 24 日（月））
- (3) ラオス国セカタム水力発電事業（協力準備調査（有償 PPP））ドラフトファイナルレポート（8 月 31 日（月））

5. その他

6. 今後の会合スケジュール確認他

- ・次回全体会合（第 63 回）：10 月 5 日（月）14:30 から（於：JICA 本部）

7. 閉会

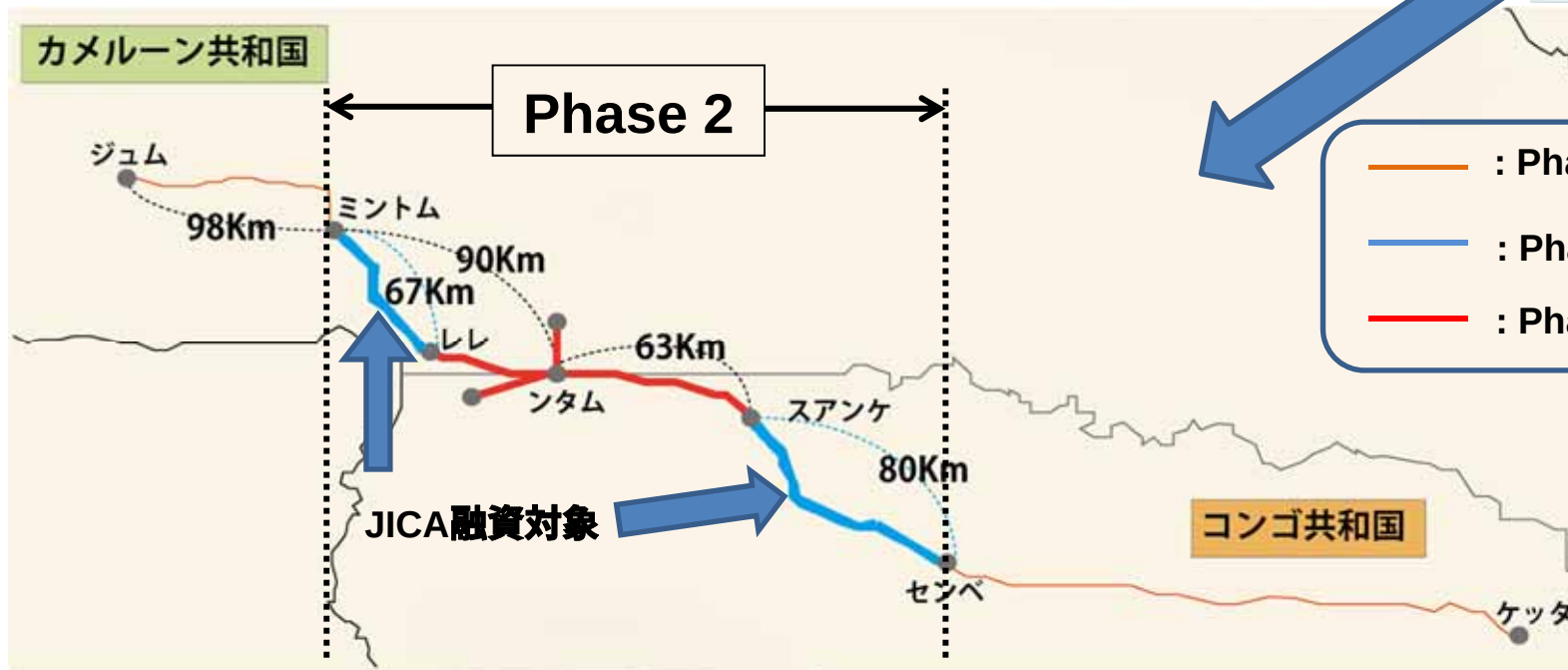
以上

カメルーン共和国-コンゴ共和国間 国際回廊整備事業

**カメルーン共和国： ミントム-レレ間
コンゴ共和国： センベ-スアンケ間**

**2015年9月11日
アフリカ部
アフリカ第四課**

事業対象地域図



- : Phase1
- : Phase2(JICA融資対象)
- : Phase2(JICA融資対象外)

内容

1. 事業目的
2. 事業概要
3. 環境レビュー方針の概要
4. 審査スケジュール

1. 事業目的①

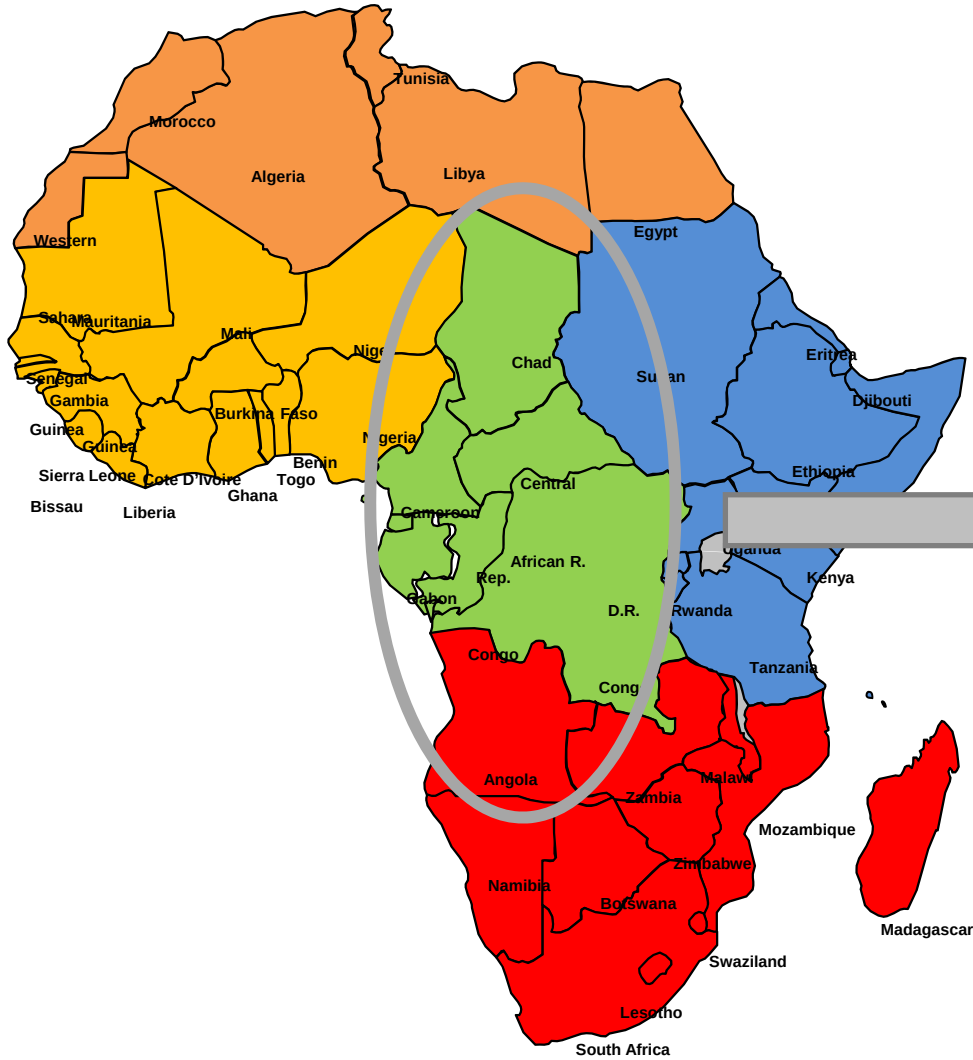


図1. アフリカ全図

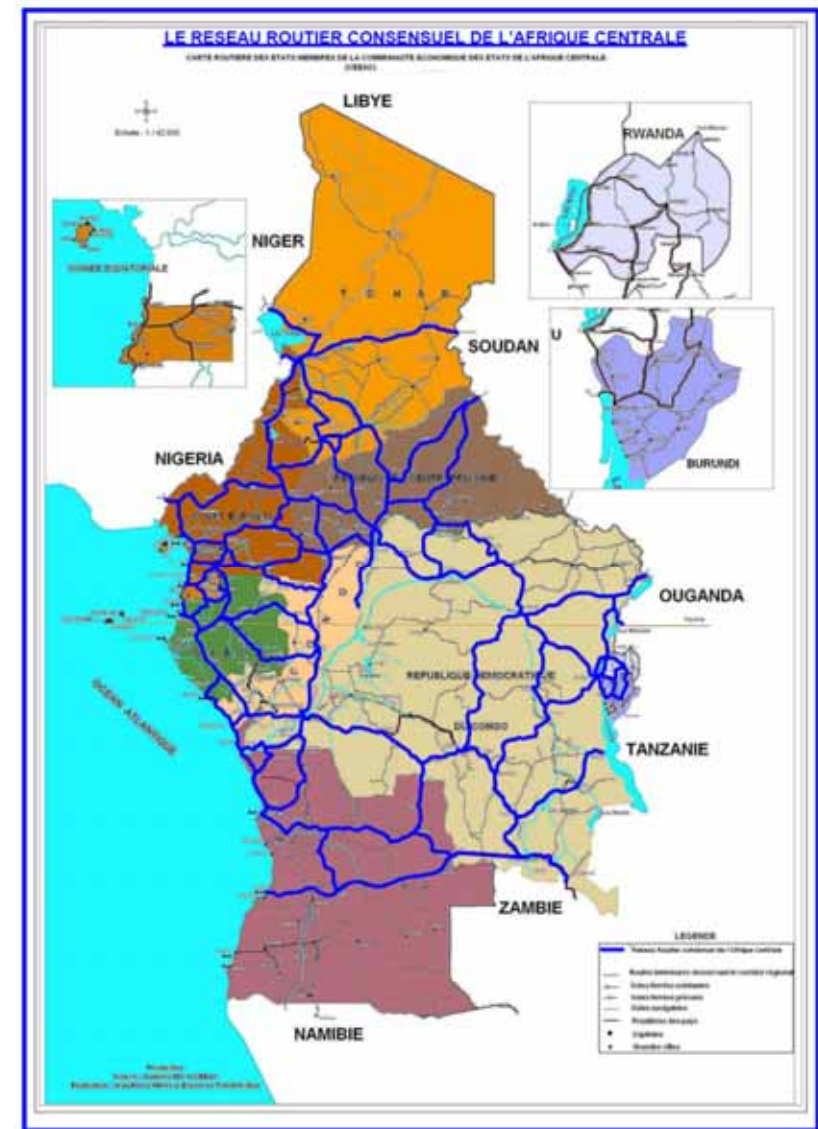


図2. 中部アフリカ運輸マスタープラン

1. 事業目的②

✓ 中部アフリカ域内統合の推進

- 当該国際回廊はアフリカ開発のための新パートナーシップ (NEPAD) における優先インフラ事業 (PIDA: Programme for Infrastructure Development in Africa) の一つに位置付けられ、また中部アフリカ運輸マスタープラン (※CEMAC, CEEAC, BDEAC共同クレジット、2007) における第一プライオリティ案件の一つにも位置付けられており、同地域の域内統合推進に資するもの。

✓ 両国の国家開発計画への貢献

- カメルーン国作成の「道路マスタープラン (2006年)」及び「運輸セクター戦略 (2009年)」並びにコンゴ共和国作成の「国家運輸計画 (2004年)」において、本事業は国際回廊整備を進める優先事業として位置づけられている。

✓ 経済開発・貧困削減への貢献

- 本事業対象地であるカメルーン南部州・東部州及びコンゴ共和国サンガ州は豊富な農林産品 (カカオ、コーヒー、パーム油、木材等) の産出地であるほか、ニッケル・コバルト・鉄鉱石等の開発も見込まれており、これら産業活動を通じた地域経済の振興、当該地域の貧困削減への貢献が期待されている。

※ CEMAC: 中部アフリカ経済通貨共同体、CEEAC: 中部アフリカ諸国経済共同体、
BDEAC: 中部アフリカ開発銀行

2. 事業概要①

- ✓ **事業内容**: コンゴ共和国サンガ州センベからカメルーン共和国南部州ミントムまでの未舗装幹線道路233km及びその支線58kmのうち、コンゴ共和国側のセンベ-スアンケ間約80km及びカメルーン共和国側のミントム-レレ間約67kmにおいて、既存未舗装幹線道路の舗装及び片側1車線(2車線)道路への一部拡幅を実施するもの。
- ✓ **アフリカ開発銀行との協調融資案件** (ACFA)
- ✓ **実施機関**: カメルーン共和国: 公共事業省 (MINTP)
コンゴ共和国: 大統領府付・大規模公共事業局 (DGGT)
- ✓ **円借款対象**: 土木工事
- ✓ **スケジュール**: 2020年の事業完成・供用開始
- ✓ **協力準備調査**: 実施せず。両国においてDD作成済み(2009年6月に完成、2014年6月にコストの再積算実施済み)。

2. 事業概要②

フェーズ1/フェーズ2
の概要
(道路整備事業等)



※ 赤字がJICA融資対象区間

国名	項目	フェーズ1	フェーズ2
カメルーン共和国	道路整備事業	Djoum⇔Mintom (98km) 舗装	Mintom⇔Lélé (67km) 舗装 Lélé⇔Ntam (23km) 舗装 Ntam⇔Mbalam (支線30km) 舗装
	付帯事業	HIV対策/交通安全/環境保全啓発活動、社会インフラ(学校)建設等	HIV対策/エボラ対策啓発活動、生物多様性保全、社会インフラ(学校)建設等
コンゴ共和国	道路整備事業	Ketta⇔Sembé (169km) 舗装 Sembé⇔Ntam (143km) 道路幅拡張(未舗装)	Sembé⇔Souanké (80km) 舗装 Souanké⇔Ntam (63km) 舗装 Ntam⇔Alati (支線28km) 舗装
	付帯事業	HIV対策/交通安全/環境保全啓発活動等	HIV対策/エボラ対策啓発活動、生物多様性保全、社会インフラ(学校)建設等

2. 事業概要③

フェーズ1/フェーズ2
の概要
(環境許認可／住民
移転計画等)



国名	項目	フェーズ1	フェーズ2
カメルーン共和国	環境許認可	2009年調査実施→2009年8月 環境自然保護省により承認済み	
	住民移転計画	2009年調査実施→2011年3月補償実施済み	
コンゴ共和国	環境許認可	2009年調査実施→2009年9月 観光・環境省により承認済み	
	住民移転計画	2009年調査実施→2011年3月補償実施済み	

3. 環境レビュー方針の概要 (1 / 3)

項目	確認済み事項	要確認事項
適用ガイドライン	「JICA環境社会配慮ガイドライン」(2010年4月)	特になし。
カテゴリ分類、分類根拠	影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域に該当するためカテゴリAに分類。	特になし。
環境許認可	(カメルーン共和国) - ESIA報告書は、2009年8月31日に環境自然保護省にて承認済み。 (コンゴ共和国) - ESIA報告書は、2009年9月7日に観光・環境省にて承認済み。	特になし。
汚染対策	- 工事中の大気汚染、騒音、水質汚濁等については、散水、運搬車両の速度制限、土壌流出対応策等により、影響の程度を最小限とする見込み。 - 供用後の騒音・振動等については、速度制限の設定等の対策が取られる。	緩和策の詳細(予算・実施体制等を含む)について確認する。

3. 環境レビュー方針の概要 (2 / 3)

項目	確認済み事項	要確認事項
自然環境面	(カメルーン共和国) - 事業対象地域は環境省により登録されている生態系保護区 (Reserve de biosphere du Dja) から約20km離れており、影響は限定的。また、一部でプランテーション材等の樹木の伐採が発生するが (約220ha)、可能な限り最小化し、供用後に植林等の緩和策が実施される予定。 (コンゴ共和国) - 事業対象地域は環境省により登録されている国立公園 (Odzala Kokoua National Park) 等からは約15km離れており、影響は限定的。また、一部でプランテーション材等の樹木の伐採が発生するが (約140ha)、可能な限り最小化し、供用後に植林等の緩和策が実施される予定。	緩和策の詳細 (予算・実施体制等を含む) について確認する。

3. 環境レビュー方針の概要 (3 / 3)

項目	確認済み事項	要確認事項
社会環境面	(カメルーン共和国) - 被影響人数 (フェーズ1で補償済み) : 127人 - 構造物、作物等への再取得価格による補償 - ステークホルダ協議を2009年3月開催 (275名出席) - 先住民族 (Baka Pygmy) 居住地域 (線形検討における文化的配慮、ステークホルダー協議への先住民族グループへの配慮など) (コンゴ共和国) - 被影響人数 (フェーズ1で補償済み) : 233人 - 構造物、作物等への再取得価格による補償 - ステークホルダ協議を2009年3月開催 (74名出席) - 先住民族 (Baka Pygmy) 居住地域 (線形検討における文化的配慮、ステークホルダー協議への先住民族グループへの配慮など)	- 住民移転計画の内容を再度確認する。 - 先住民族への配慮事項を確認する。
その他・モニタリング	大気質、水質汚濁、騒音・振動等について実施機関によりモニタリングが実施される見込み。	モニタリング項目・頻度・方法・実施体制の詳細について確認する。

4. 審査スケジュール

年度	2015				2016			
月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
審査			▲ 審査				▲ L/A	
助言委員会	▲ 全体会合 (案件概要説明)	▲ WG (助言案検討)	▲ 全体会合 (助言確定)				▲ L/A	
環境社会 配慮文書 (ESIA)		▲ ESIA公開		120日以上公開				

<参考>カメルーン共和国／コンゴ共和国の概況

カメルーン共和国基礎情報

- 人口(2014):約2,282万人
- GDP成長率(2013):5.5%
- 一人当たりGNI(2014):1,350ドル
- GDP構成比(2011):第1次産業(21.4%)、第2次産業(23.7%)、第3次産業(37.5%)
- 政治・経済状況は比較的安定し、地域最大の貿易港ドゥアラ港は内陸国への物流の要であり、地域に裨益するインフラ整備
- 天然資源に恵まれ、農業に適した土地ながら経済成長は低迷。貧困問題解決につながる人的開発、産業・農業振興の取り組みが求められる。
- インフラの未整備やガバナンスの悪さといった構造的な問題により、2012年までの経済成長は小規模。その後石油・天然ガスの産出及び大規模インフラ事業の投資により改善し、2013年の経済成長率は5.5%。
- 貧困率(2007):27.6%
- 主要産業(2014):農業、鉱業
- 道路舗装率(2014):17%

JICAの協力実績

有償・無償はE/Nベース、技協は年度予算

単位:億円

年度	円借款	無償資金協力	技術協力	合計
2009年	-	20.24	3.11	23.35
2010年	29.39	0.18	4.36	33.93
2011年	-	10.90	7.49	18.39
2012年	-	15.93	5.82	21.75
2013年	-	3.83	6.05	9.88
累計	170.67	265.95	70.03	506.65

コンゴ共和国基礎情報

- 人口(2014):約456万人
- GDP成長率(2013):4.5%
- 一人当たりGNI(2014):2,680ドル
- GDP構成比(2012):第1次産業(66.2%)、第2次産業(12.4%)、第3次産業(21.4%)
- 同国では1990年代以降、反政府民兵と政府軍との間での武力衝突が継続したが、2005年5月に反政府勢力が武装解除を表明して以降、治安情勢は安定し、2009年の大統領選挙も平和裏に実施。以降、安定的な政治・経済状況が保たれている。
- 豊富な地下資源(石油、天然ガス、鉱物資源等)及び森林資源を有し、物流の要所となるポワント・ノワール港(水深15m)を擁するなど、高い開発ポテンシャルを有する。
- 国内の4地点を経済特区と定め外国企業誘致を推進。また基礎インフラ整備や農業振興等を通じて、産業多角化を目指した取り組みを進めている。
- 貧困率(2011):32.8%
- 主要産業(2014):鉱業、林業
- 道路舗装率(2010):24%

JICAの協力実績

有償・無償はE/Nベース、技協は年度予算

単位:億円

年度	円借款	無償資金協力	技術協力	合計
2009年	-	4.38	0.36	4.74
2010年	-	0.09	0.30	1.33
2011年	-	7.29	0.42	9.03
2012年	-	0.07	0.93	1.00
2013年	-	2.79	1.86	4.65
累計	0	55.77	6.51	116.52